

テーマ 36

バイオマス資源としての間伐材等剪定・運搬サイクルの
確立に向けた検証（袋井市）

1. 解決したい課題の内容

- ・袋井市の再生可能エネルギーのポテンシャルは、現状、ほぼ「太陽光のみ」という状況であるが、2024年12月、市内において木質バイオマス発電事業者の操業が開始される予定であり、剪定枝や間伐材などのバイオマス資源の市内消費の可能性も見えてきたところである。
- ・一方、市内には、約2,000haの森林があり、多くのバイオマス資源が存在するにもかかわらず、採算性の合う剪定技術や運搬技術がないことから林業経営体が発足せず、その活用が期待できない状況である。

2. 実現したい目標について

木材利用及びバイオマス利用（木質バイオマス発電燃料）の両立

3. 必要とする技術について

以下を想定するが、これにこだわらない。

- ・剪定枝や間伐材などのバイオマス燃料になる木材を特定する技術
- ・剪定（加工）技術及び運搬技術

4. 想定する実証実験（内容・希望時期等）について

- ・※実証内容は以下を想定するが、これにこだわらない。
- ・官公庁が所有する森林をフィールドとして、提案技術を用いたプロトタイプ等を実証導入し、効果を検証する

5. 課題に関連する事業のホームページ URL

- ・袋井市「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」
https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/soshiki/16/2/keikaku_hokoku/12414.html